

## 銚子市立病院から銚子市民の皆様へのご報告

### 一・銚子市周辺地域の医療事情は悪化しています

銚子市立総合病院が休止してから、銚子市民は大きな手術や救急医療を旭中央病院と鹿島労災病院に頼ってきました。ところが最近、その2病院では大勢の医師が辞めるという事態になりました。鹿島労災病院では整形外科と内科の医師が激減し、外科だけは千葉大学の支援でがんばっていました。本年夏に外科部長として長年、鹿島労災病院に貢献してきた千葉大学外科出身の徳本先生がお亡くなりになり、外科の戦力も大きく低下しています。

旭中央病院は銚子市民がお世話になる事が多い病院ですが、近年内科の医師が大量に辞めたため、残された医師に過大な負担がかかり、救急医療に対する対応が従来のように円滑に実施できなくなっているように、旭中央病院からは「銚子市民は銚子で診て欲しい」と言われています。

このように銚子市周辺の病院は医師不

足のために医療の機能が著しく低下しており、今や「銚子市民の健康は銚子市立病院が守る」ことが強く求められる状況になっています。私達銚子市立病院のスタッフはそのことをしっかりと理解しており、銚子市民のために、銚子市立病院の機能の強化を目指しているところです。

### 二・再開後の銚子市立病院は発展を続けています

銚子市立病院の再開から2年半が経過しました。再開当初の外来患者さんは1日に10名にも満たない日もありましたが、患者数は日増しに増加し、現在は1日の外来患者数が300名を超える診療日も珍しくなく、外来患者さんの待合スペースは混雑しています。入院患者数も増加しており、本年8月には療養病棟をオープンしました。また本年6月からは千葉県健康福祉部とも話し合い、週に2日、水曜日と木曜日に夜間の二次救急の受け入れを開始しました。今後、医師や看護師のスタッフを充実させて、救急患者の受け入れを増やしていきます。

手術室は古い手術器械などが物置状態

になって置かれていましたが、本年1月から銚子市役所の病院再生室にもご協力を頂いて整備し、ようやく手術可能な状況となり、9月から眼科の手術を開始しました。10月から麻酔科の佐藤哲雄先生(防衛医科大学校名誉教授)が常勤で勤務していただける事になり、全身麻酔の手術が可能になりましたので、手術適用の患者さんがいて、胃癌・大腸癌などの外科手術を開始する予定です。

このように銚子市立病院は市民の皆様の医療を守る体制が整ってきており、スタッフ一同、安全安心な医療を目指して、医療の質を高めるべく努力しているところです。

### 三・10月17日 市議会による補正予算の否決

平成24年10月17日に行われた銚子市議会臨時会の採決で、平成24年度銚子市病院事業会計補正予算が賛成8、反対12で否決されました。参考までに補正予算に賛成された議員、補正予算に反対された議員のお名前を以下に記載いたします。

(賛成)

桜井 隆議員、 星 伸人議員、  
伊藤 隆司議員、 加瀬 竹二議員、  
釜谷 藤男議員、 広野 恭代議員、  
工藤 忠男議員、 宮内 昭三議員、  
(反対)

地下 誠幸議員、 越川 信一議員、  
宮内 和宏議員、 加瀬 庫藏議員、  
笠原 幸子議員、 三浦 眞清議員、  
桑村 邦博議員、 鈴木 一実議員、  
岩井 文男議員、 根本 茂議員、  
宮川 雅夫議員、 石上 允康議員、

なお、秋元 賢二議員は議長のため、採決には参加されておりません。

反対票を投じた12名の議員の方々は、「銚子市立病院が出している赤字を、銚子市が税金で補てんするべきではない」と主張されていると聞いています。補正予算の否決は「銚子市立病院が赤字によって資金がなくなった時点で、病院が休止になるが、それも仕方がない」ということを、市議会が市民の皆様のご代表として意思表示したことになります。赤字が補てんされなければ

ば病院を続けていくことは不可能です。実際、補正予算が否決されたため、平成24年11月上旬には病院の資金繰りがつかなくなり、職員の人件費の支払い、薬品の購入ができなくなりましたので、その時点で病院を休止せざるを得ません。

市民の皆様は市立病院休止ということではよろしいのでしょうか？ この点に関して市民の皆様方のお考えをお聞きしたいと思ひ、本報告書を皆様にお届けする次第です。

#### 四 銚子市立病院の赤字の内容

ここで、今回の市議会臨時会で論点となった銚子市立病院の赤字についてご説明します。再開初年度の平成22年度の赤字額が約154百万円、再開2年目の平成23年度の赤字額が約544百万円、3年目の今年度の赤字の見込み額が約537百万円となっています。今年度の赤字の見込み額約537百万円の内訳は、収入約674百万円、支出が約1,211百万円となっており、支出が収入の2倍近く出ています。これは経費を無駄に使っているからで

はなく、収入、特に入院や手術にかかわる収入がまだ十分ではないことが要因となっています。収入を増やすためには、病棟のベッド数を増やして入院患者数を増加させ、手術を開始することが重要で、医師の確保、看護師の確保が必須となります。しかしながら、銚子市は地の利が悪く、銚子勤務を希望する常勤医師の招へいは極めて困難ですので、非常勤の医師を確保してきましたが、人件費がかさんで赤字の大きな原因になっています。その赤字は常勤の医師に来ていただくこと、手術の開始、入院患者の増加によって低減していきま

す。当初、銚子市及び市議会は病院再生の過渡期に生じる赤字は市が補てんすると約束していました。ところが今や「赤字を補てんすることはできない」と反対票を投じた議員の方々は言っています。そのようなことを聞けば、医師をはじめとする銚子市立病院のスタッフたちはこぞつて辞めてしまします。

以上の反対派の議員のご意見について、市民の皆様はどうお考えになりますか？

## 五・公立病院の役割と千葉県内の公立病院の赤字

公立病院には、住民の皆様には質の高い医療サービスを提供するという医療機関としての根源的な責務に加えて、医療従事者の教育、医療の進歩のための研究、市民の健康保持のための公衆衛生活動など、公共性が高い事業を行う使命があります。これらの活動を実施するために公立病院へ公的な資金が供給されます。残念ながら、現在の日本においては各地の公立病院の多くは赤字になっています。

千葉県内の公立病院も同様です。開設されてから時間がたち、安定的に運営がなされている公立病院でも赤字病院は多くあります。赤字なのは銚子市立病院だけではなくありません。

では、どうして銚子市立病院のみが赤字、赤字と取り上げられるのでしょうか？市民の皆様は不思議だと思いませんか？

全国の医師たちは銚子市立病院が赤字であり、市議会が赤字補てんを否決するという報道を読んで「銚子市には近寄らない方がいい」と感じるため、銚子市立病院は医師確保がますます困難になっています。

そのために非常勤の医師に頼る割合が増え、医療の質の向上が難しいのみでなく、非常勤医師に来てもらうために割高の給料を出さなければならぬので、人件費が増加し、それが赤字をさらに大きくしています。このような悪循環が生じているにも関わらず、銚子市立病院の赤字が執拗に報道されるのには、理由があるはずです。

## 六・病院を政争のネタに使わないで欲しい

現在の日本では、公立病院の赤字は各自治体によって財政的に対応されて病院が機能しているのが現状ですが、それらの病院の赤字は新聞に載ることはありません。どうして銚子市のみが「銚子市立病院の赤字」を大きく取り上げられるのでしょうか？ その理由は銚子市立病院の経営、赤字が市議会の政争のネタにされているためでしょう。

赤字を補てんすることに反対票を投じた議員の方々は、銚子市立病院を再度、休止に追い込みたいのでしょうか？ あるいは、現在の病院を休止にしたあとで、ご自分たちがリーダーシップをとって病院

を再開したいのでしょうか？

しかし、現在の銚子市立病院が赤字を理由に休止になったら、またまたそのニュースは全国の医師たちの知るところとなり、多くの医師は銚子市に対し、マイナスの印象を強く持つようになるでしょう。特に今回の市議会では、赤字補てんの否決を行っただけではなく、三顧の礼を尽くして招いた麻酔の権威の医師に対して、年齢による差別等を背景にした人権侵害的な個人攻撃ともいえる発言があつたと聞いています。これでは千葉大学を始めとして全国の大学の医局からの医師派遣は全く得られず、また一般公募でも医師は集まらず、医師が寄り付かなくなつて銚子市から公立病院が消えてなくなる事は必定です。これは休止ではなく、再開不能による廃院を意味します。

以上のような現状を踏まえて、市民の皆様にお聞きます。現在の銚子市立病院を赤字だからと言う理由で廃院にすることに賛成されますか？ 廃院に持ち込もうとする市議会の議決を支持されますか？

日本全体を見回して、公立病院をネタに

このような政争をしている都市は銚子市以外には聞いたことがありません。医療をもつて社会に奉仕しようという気概を持つて銚子市にやってきた我々医師団は、病院を政争のネタにする銚子市議会の対応にあきれてものが言えません。我々医師団がこのような土地に長居をすることができると思われますか？

## 七. 銚子市立病院のスタッフの決意表明

しかしながら、市民の皆様、ご安心ください。

私達現在の医療スタッフは銚子市立病院を助けたい、銚子市民の健康を守りたいという志を抱いて銚子にきています。ですから、赤字病院だからといって辞めていくことはありません。赤字だからといって廃院にすることには断固として闘います。銚子市立病院を市民の医療を守る砦とし、銚子市医師会、旭中央病院、鹿島防災病院などと協力して、銚子、鹿島、旭地域の医療を強固なものにしていく所存です。

そのためには、市民の皆様のご理解とご協力が必要です。

## 八. 銚子市立病院を廃院から救うために

本年11月以降も銚子市立病院を継続して運営できるように、野平市長には、市長の権限で赤字補てんの手続きをお願いします。

私たちは、何があっても銚子市立病院を継続させる覚悟をしています。今後とも、医療人として、銚子市民の皆様を健康を守るために、質の高い医療サービスを提供し続けることに専念していきます。そのために、銚子市民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

### 銚子市立病院を守るのは、銚子市民の皆様です。

平成二十四年十一月二日

#### 白濱龍興

医療法人財団銚子市立病院再生機構理事  
銚子市立病院院長、千葉大学医学部卒、自衛隊中央病院元院長（内科）

#### 佐藤哲雄

医療法人財団銚子市立病院再生機構理事  
銚子市立病院顧問、手術部部长、群馬大学医学部卒、防衛医科大学校名誉教授（麻酔科）

#### 落合武徳

医療法人財団銚子市立病院再生機構理事  
わかみや診療所院長、銚子市立病院顧問  
千葉大学医学部卒、千葉大学名誉教授（外科）  
若海ミツエ

医療法人財団銚子市立病院再生機構理事  
銚子市立病院看護部長

本報告に関するご意見、お問い合わせは以下にお願いします。なお、お電話によるご意見は、ご遠慮願います。

投書：銚子市立病院待合室「市民の皆様からのご意見箱」

お手紙：〒288-0031 銚子市前宿 597 銚子市立病院

市民の皆様からのご意見係り

F A X : 0479-23-0711

市民の皆様からのご意見係り

メール：goiken@choshi-hospital.jp